

## [083\_03] 法政研究表紙奥付

<https://hdl.handle.net/2324/1790473>

---

出版情報：法政研究. 83 (3), 2016-12-15. 九州大学法政学会  
バージョン：  
権利関係：

## 目次

担保権実行中止命令の対象となった債権の取立ておよび費消……………	浅野雄太（一）
——二つの高裁決定を素材として——	
フランスにおける刑事責任と年齢の関係について……………	井上宜裕（二九）
—— LABOUBE 事件判決を素材として ——	
多階層保有証券に関する一覚書……………	上田純子（四七）
—— グローバル・カストディアン の視点から ——	
阿片と日華賠償問題……………	熊野直樹（七七）
梅謙次郎の子供たち……………	七戸克彦（一一五）
北洋政府期法典編纂機関の変遷について……………	西英昭（一八七）
—— 法典編纂会・法律編査会・修訂法律館 ——	
近代東アジアにおける国際法受容の諸段階……………	韓相熙（四七〇）
—— 1864～1910年間に日中韓越で出版された著作を中心に ——	

金田平一郎と九州帝国大学	和仁かや(二一九)
エジプトにおける国際法受容の側面	沖祐太郎(二三九)
——フランス語版『戦争法』(カイロ、一八七二年)のテキスト分析を中心に——	
オッペンハイムの慣習国際法理論	小栗寛史(二六九)
——黙示の同意と国際法の普遍性——	
太平洋戦争開戦直前の自衛権	西嶋美智子(二九七)
——日米交渉期の日米を中心として——	
喧嘩両成敗観念の紛争処理法としての性格に関する試論	河野恵一(三二五)
——前近代紛争処理制度の通時代的理解に向けた論点の再整理と展望——	
ノルマン征服から13世紀初めまでのアングロ・サクソン諸法集	苑田亜矢(四三〇)
——手書本の伝来状況に着目して——	
Moratorium in Japanese Medieval Law	西村安博(三九二)
戦間期国際法学における国際組織の位置づけ	山田哲也(三五二)
——J.L. Briertyを題材として——	

直江眞一教授 著作目録

柳原正治教授 著作目録